

会議結果報告書

1	会議名	「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針（素案）」等に関する説明会（市民向け説明会）
2	日時	令和2年1月16日（木）19:00～20:30
3	場所	茅ヶ崎市役所本庁舎4階会議室5
4	出席者	（資源循環課）森岡担当主査、原田副主査、永井主任 （環境事業センター）永島所長補佐、門倉主査 （市民向け説明会）参加人数：5人
5	内容	<p>「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針（素案）」等に関する説明会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 戸別収集の市民ニーズ調査の説明の中で、アンケートについて触れられていたが、回答者数は何名か。本日持参した、市のホームページにある資料には、43名と記載されているが、少なすぎないか。 <p>→ 43名と記載されている資料については、平成30年11月30日～12月2日までの期間で行った、市民向け意見交換会のアンケート集計結果である。本日の説明で用いたアンケートの集計結果については、平成30年4月22日～平成31年3月31日の期間で行った、自治会向けの意見交換会であり、回答者数としては、2,294名である。この回答者数については、十分に茅ヶ崎市の民意を反映している数字と考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本的には有料化に賛成であるが、袋を記名式にし、具体的なパトロール方法を検討し、さらには、啓発活動をより推し進めていかないと、市が目標としている、家庭ごみの25%減量の達成は難しいと考える。駅周辺の自治会に所属しているが、テレビが捨てられていることもあった。不法投棄をする者がまだまだ茅ヶ崎市には存在する。なにより、啓発が大切である。また、ごみ関連の施策をとおして、自治会に加入するメリットをつくりだすことが大切であると考えている。自治会としても市に協力させていただきたい。 ● 藤沢市の戸別収集の実態を良く知っているのので、茅ヶ崎市で戸別収集を実施するのは不可能だと思っていた。茅ヶ崎市は道が狭いので、相当の経費がかかることは予想できたはず。それにも関わらず、有料化と戸別収集をセットで考えるといった昨年からの市の説明は、軽率だったと考える。今日の説明会を聞いて、有料化で得た財源を、灰の処理経費や施設整備にかかる経費に充当するといった説明は、よくわかったが、なぜ市税で対応できないのかが疑問である。税金を使わずに、全てを手数料から賄うといった説明は、住民が納得しないのではないか。新たな家計への負担になる有料化については、主婦としては、厳しいところがあるが、紙おむつなどの有料化対象外品目を考えてくれているのは、評価したい。また、集積場所の設置基準を緩和することだが、集積場所を管理しているのは、住民であり、高齢化も進んでいるため、配慮をお願いしたい。ごみ有料化実施までの期間については、市民が住みよい茅ヶ崎になるよう、十分に検討を進めていただきたい。

→ ごみ有料化については、新たに費用を負担していただくことになるので、十分な周知啓発を進めていきたい。また、有料化による手数料収入については、灰の処理経費や施設整備費に充当させていただくが、それでも足りない部分については、市税を充当し、安定したごみ処理を行っていきたい。また、集積場所の設置基準の緩和については、その管理が上手くいっている場所まで、分割するといったことではない。なお、集合住宅を開発するにあたり、8世帯未満のアパートなどは、敷地内に集積場所を設ける必要はなく、地域の集積場所を利用している実態があるが、その基準を見直し、地域の集積場所に負担をかけない方向で考えている。

● 燃やせるごみの不適正排出の分析だけではなく、それ以外の品目についても資料に掲載するべきと感じた。プラごみなども出るはずであるので、それらの処理の方法などもお伺いしたい。ごみの有料化については、反対ではない。市販されている袋の値段と大して変わらない。しかし、生活するとごみは必ず出るので、ごみ少なくするという市の説明には無理がある。25%の不適正排出分を減らすために、啓発が大切になるが、未利用食品等の排出については、個人のモラルの問題であるので、行政の啓発ではどうにもならない。メルカリなどの民間と、リユースを推進するべきである。また、安心まごころ収集による戸別収集については、高齢者や障害者の方々を支える、ヘルパーや自治会などと協力することが大切であると考えている。なお、分別がわかりづらい品目については、すべて「ごみと資源物の分け方出し方」に掲載すべきである。

→ プラスチック製容器包装類については、資源物として扱っており、固形燃料や製品などにリサイクルされている。有料化を導入することで、費用負担を意識することにより、適正排出を促すことで、25%の削減目標を達成したいと考えている。民間も含めた、既存のリサイクルの仕組みについても市として啓発ができれば効果はあると考えている。また、ヘルパーなどとの連携についても検討していきたい。

● 広場などで行うイベントなどで出たごみは、基本的には全て持ち帰るなどの啓発を進めるべきだと考える。

● 以前、寒川町にあるリサイクルセンターに見学に行ったことがあるが、そこで働く職員の姿勢や苦勞を知ることにより、適正な分別を心掛けるようになった。施設見学会などの啓発は、非常に有効と考えるので、是非進めていただきたい。

● なぜ、本日の説明会の参加者が5名しかいないかは、市としてしっかり考えるべきである。開催案内をHPから見つけ出すだけでも、相当な時間を要した。有料化実施後に問題にならないよう、有料化についてしっかりと周知をすべきである。

● 県内の有料化を実施している市町村は、ごみの減量化が図られているとのことであるが、有料化だけでなく、戸別収集についてもごみ減量化に資する施策であると考えている。有料化と戸別収集はセットであると認識している市民が多くいると思うの

で、心配している。

● 県内の有料化を実施していない市町村の実態も知りたいと感じた。優良事例等の紹介も検討して欲しい。

● 有料化実施後、一定期間が経つとごみの減量効果が無くなり、有料化の実施を中止することを検討している市町村もあると聞いたことがある。

→ ご指摘のとおり、有料化実施後その効果が薄れ、リバウンドすることもある。手数料の負担額が高ければ高いほど、リバウンドする可能性が低くなる傾向があるため、1L当たりの袋の値段を2円とすることを考えている。

以上